

基本計画（素案）

－参考資料－

| | |
|--------------|----|
| IV. ゾーニング（案） | 1 |
| V. 施設計画（案） | 7 |
| VI. 動線計画（案） | 10 |

IV ゾーニング (案)

【特別史跡平城宮跡整備ゾーニング図】

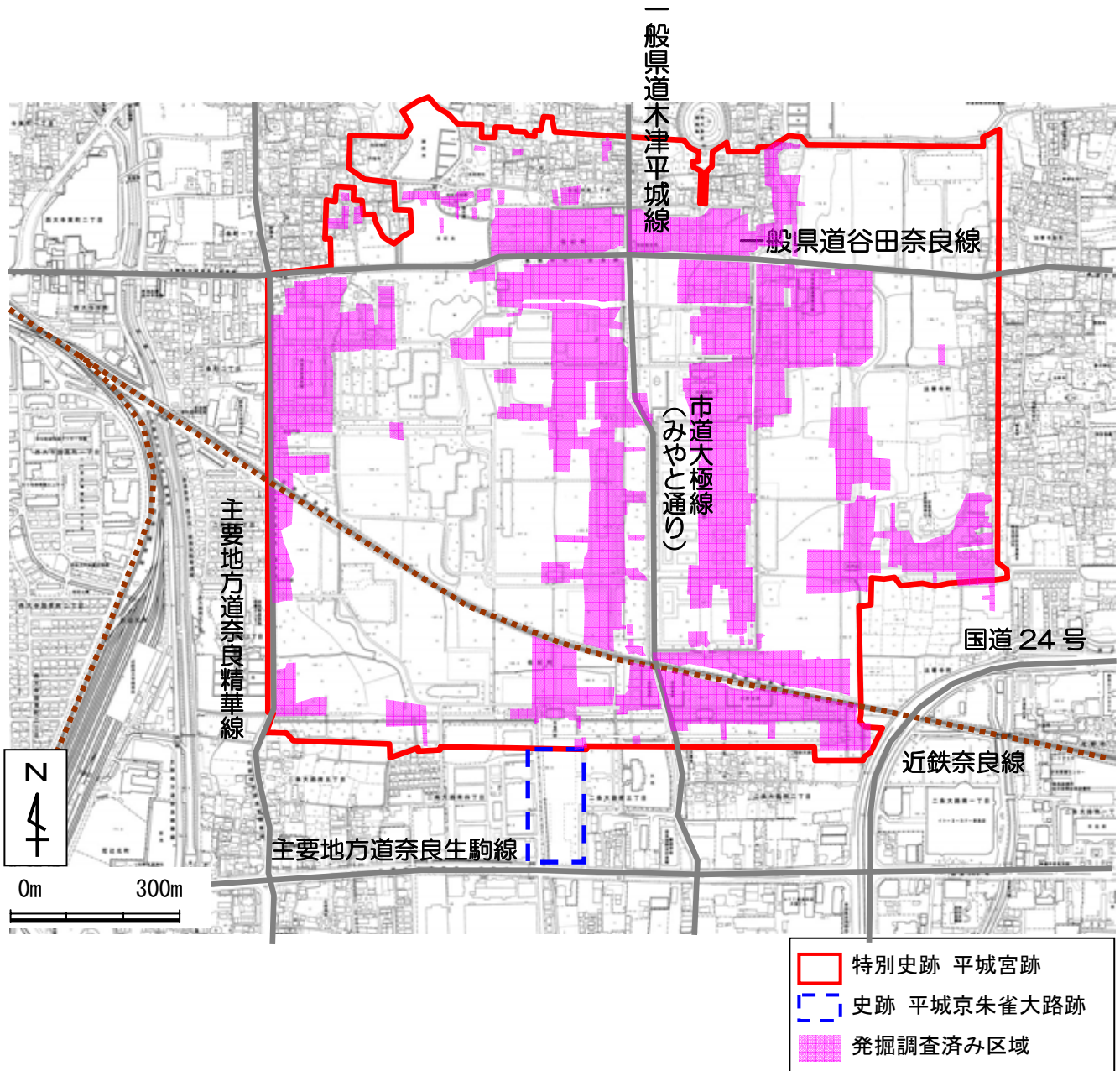


注)
 「研究・管理・展示施設ゾーン」のうち、奈良文化財研究所本館・平城宮跡資料館・研究棟・収蔵庫等からなる西部区画では、研究棟・収蔵庫等は条件が整えば特別史跡指定地隣接地への移転を進め、平城宮跡資料館が持つ機能も指定地隣接地へ移転することが望ましい。これらの施設が移転した場合、移転先の区画も「研究・管理・展示施設ゾーン」として位置づける。また、西部区画一帯は近鉄大和西大寺駅からの来訪者に対応するサブエントランスエリアであることから、展示施設(平城宮跡の展示施設ネットワークにおいて副館的機能を持つもの)により情報提供等を行なう「研究・管理・展示施設ゾーン」としての位置付けを残す。一方で、区画中部の馬寮と区画北東部の推定西池宮については「遺構表示ゾーン」へ、区画南部については「池沼・草園・広場等ゾーン」へ位置付けを変更する。

資料：「特別史跡平城宮跡保存整備基本構想推進計画」(H20.5.13、文化庁)

【発掘調査状況図】

- 平城宮跡の発掘調査は、建物復原や遺構表示が行われている部分を中心に、特別史跡の約 1/3 が完了している。



資料：奈良文化財研究所資料をもとに作成（平成19年）

【主要な視点場からの眺望状況】

①佐伯門跡から東を望む（桜並木）



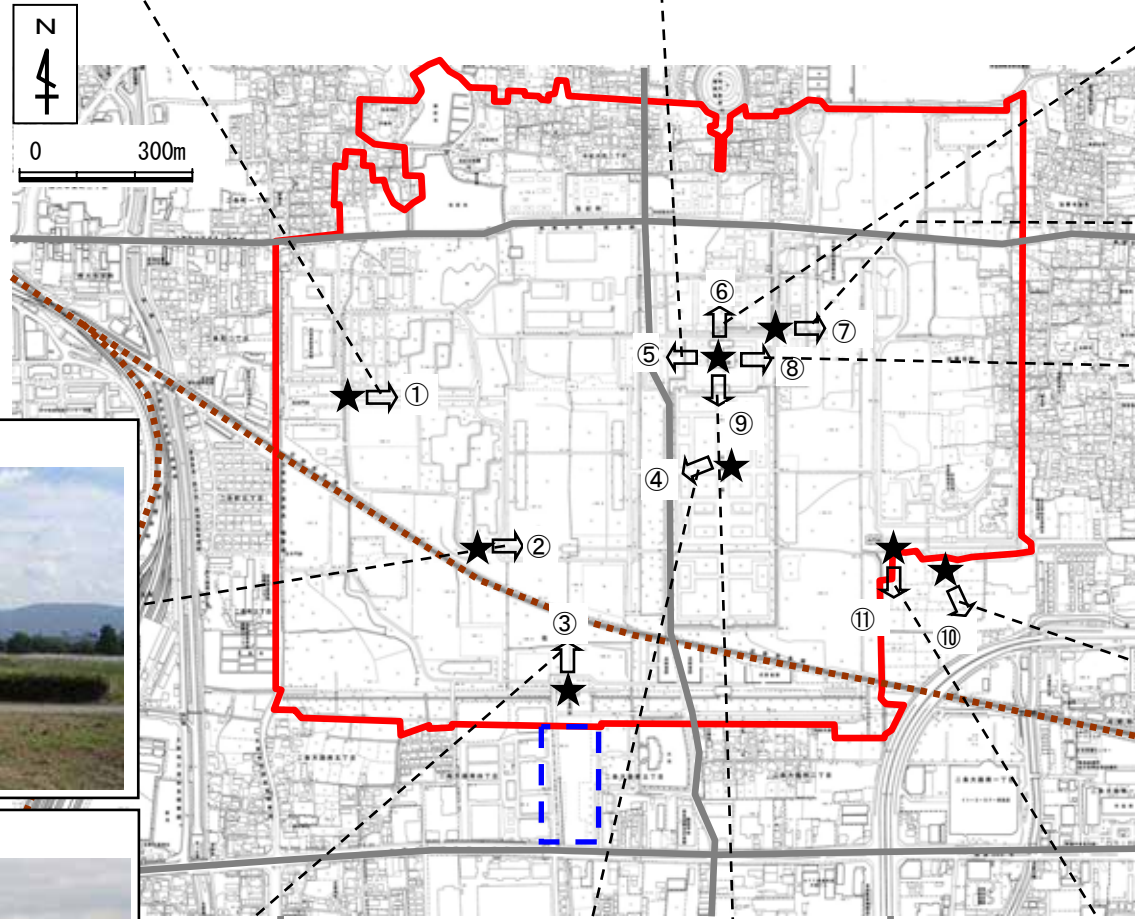
⑤第二次大極殿から西を望む（生駒山、矢田丘陵）



⑥第二次大極殿から北を望む（奈良山丘陵、平城天皇陵）



・平城宮跡の主要な視点場として、第二次大極殿、朱雀門などがあり、特に第二次大極殿の基壇からは、北、東、西の三方の山並みが見渡せる。
 ・東院庭園方面からは、国道24号の高架が景観阻害要因となっている。



⑦推定宮内省南から東を望む（若草山）



②第一次朝堂院西南端から東を望む（春日山）



⑧第二次大極殿から東を望む（東大寺、若草山、春日山、高円山）



③朱雀門から北を望む（宮跡内、第一次大極殿）



⑩東院庭園南東（24号、アスカポウル）



④みやと通り



⑨第二次大極殿から南を望む（第二次朝堂院）

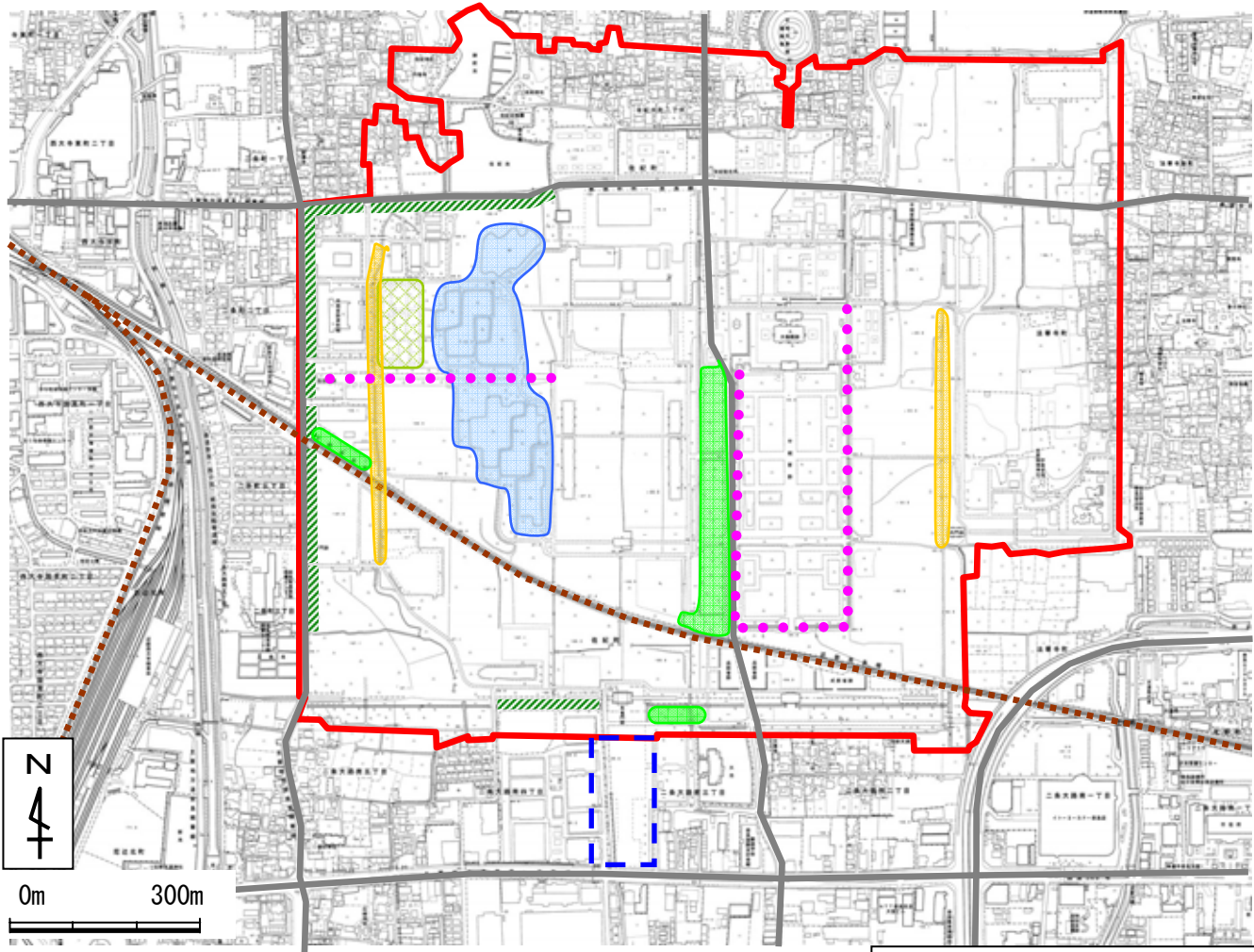










⑪的門跡から南を望む（24号、イトーヨーカドー）



【自然環境資源の存在状況】

- ・まとまった自然環境が残るのは平城宮跡資料館東側に広がる池沼部分である。
- ・外周部の一部と中央南北には、バッファ機能を持つ密な高木植栽が行われている。
- ・サクラ並木や梅林など、観賞目的の植栽地もある。
- ・東西の水路にはヘイケボタルが生息している。

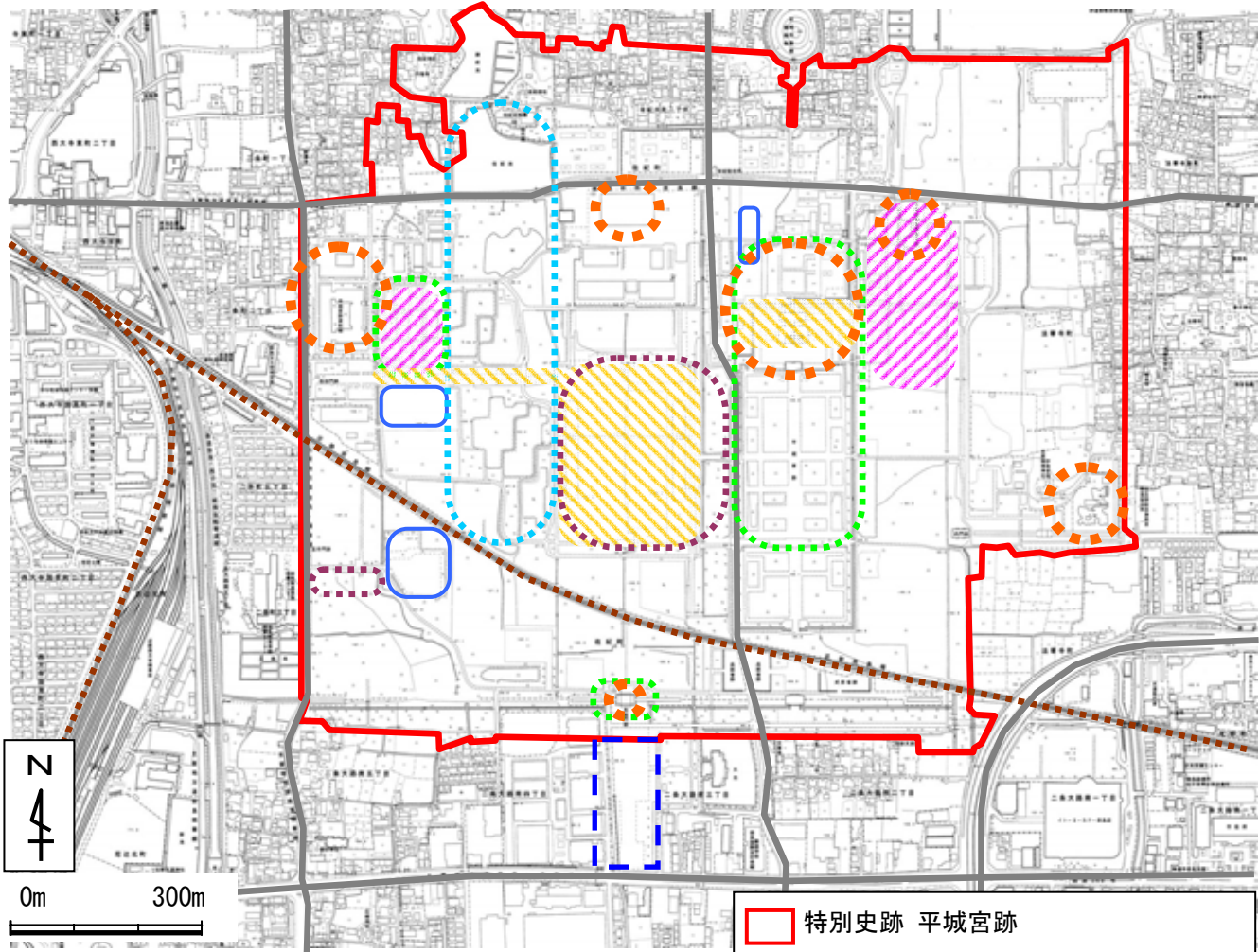


| | |
|---|-------------|
|  | 特別史跡 平城宮跡 |
|  | 史跡 平城京朱雀大路跡 |
|  | 緑陰帯 |
|  | 梅林 |
|  | バッファ（外周） |
|  | サクラ並木 |
|  | 水辺・野鳥 |
|  | ヘイケボタル生息地 |

資料：「平城宮跡の自然環境に関する調査報告書（H18.6）」ほかを参考

【レクリエーション活動の状況】

- ・歴史文化学習や観光活動は、復原された施設や展示施設を中心に行われている。
- ・レクリエーションは、東西の芝生地で行われている。
- ・学校団体は、内裏から第二次大極殿にかけての部分で昼食や休憩をとることが多い。
- ・多目的な利用が行われているオープンスペースが3カ所ある。
- ・宮跡の南側にいくほど、湿地状の場所が増えるため、全般に南側の利用は少ない。



- 特別史跡 平城宮跡
 - 史跡 平城京朱雀大路跡
 - 歴史文化観光
 - ▨ レクリエーション
 - 趣味の活動※
 - 野鳥観察
 - 多目的利用
 - 学校団体
 - ▨ イベント
- ※：音を出す活動(楽器練習、演劇練習)
 広がりが必要な活動(凧揚げ、手投げグライダー)

資料：「特別史跡平城宮跡平成 15 年度秋季及び冬季利用実態調査報告書 (H16.2)」を参考

VI 施設計画（案）

【整備状況（遺跡の表現・各種施設整備）】

- ・特別史跡平城宮跡は1978年（昭和53）に策定された「特別史跡平城宮跡保存整備基本構想」に基づき、「遺跡博物館」として文化財の保存活用について様々な取組みを行っている。
- ・具体的には、調査研究成果に基づき、①遺構露出展示（「遺構展示館」）、②遺構レプリカ展示（造酒司の井戸など）、③遺構表示（第一次朝堂院・内裏など）、④部分復原（第二次大極殿、壬生門など）、⑤復原（朱雀門・東院庭園など）といった手法で遺跡の表現を行っている。
- ・また、各種施設整備として、①埋蔵遺構の保存や景観等に考慮した池沼、②園路・広場、③便所や必要最小限の駐車場等の便益施設、④資料館・説明板等の情報提供施設などを実施している。



【平城宮の施設配置】

・平城宮跡の史跡配置は、奈良時代の前期と後期で異なっている。

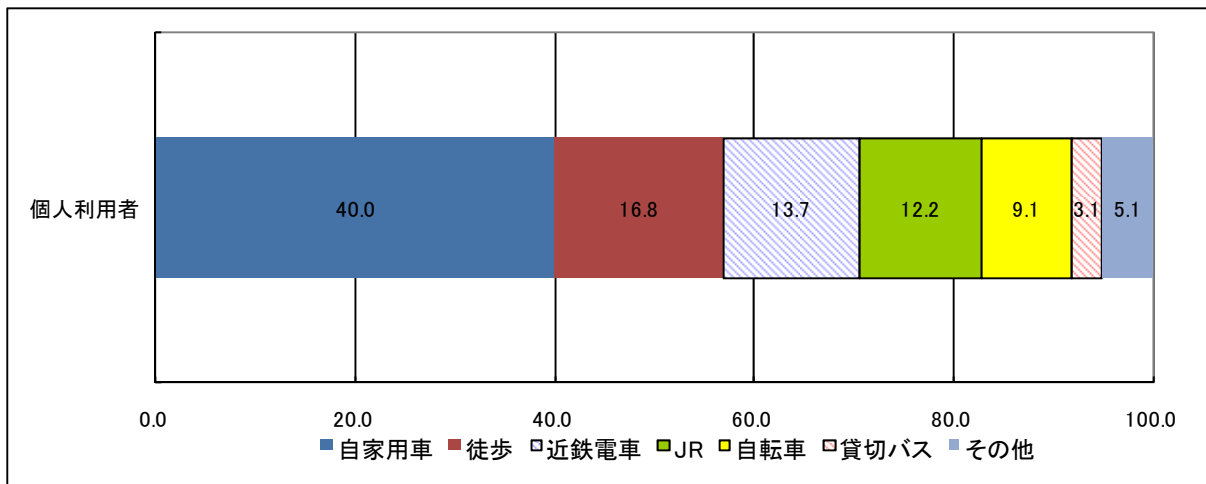


資料：パンフレット「特別史跡平城宮跡」(奈良文化財研究所)

【来訪者の交通手段】

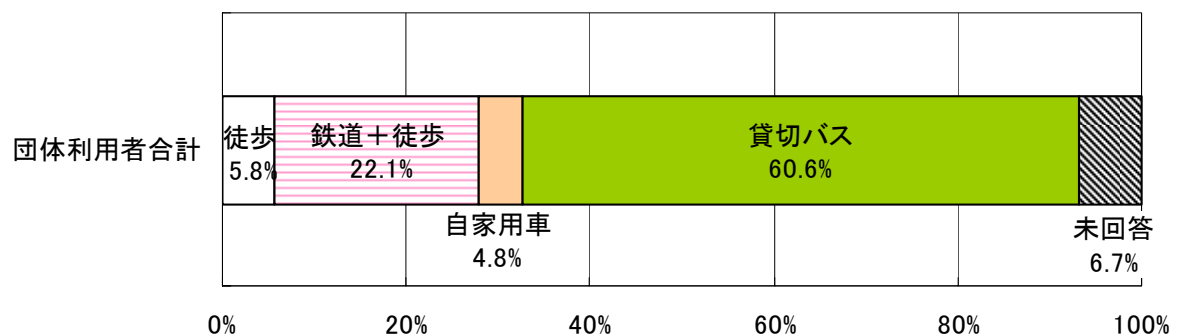
(個人利用者(n=520))

- ・自動車利用が4割で、以下、徒歩、近鉄電車、JR と続くが、この三者は公園の出入りは徒歩となり、これが合計で4割以上を占める。
- ・自転車利用も1割弱みられる。



(団体利用者(n=104))

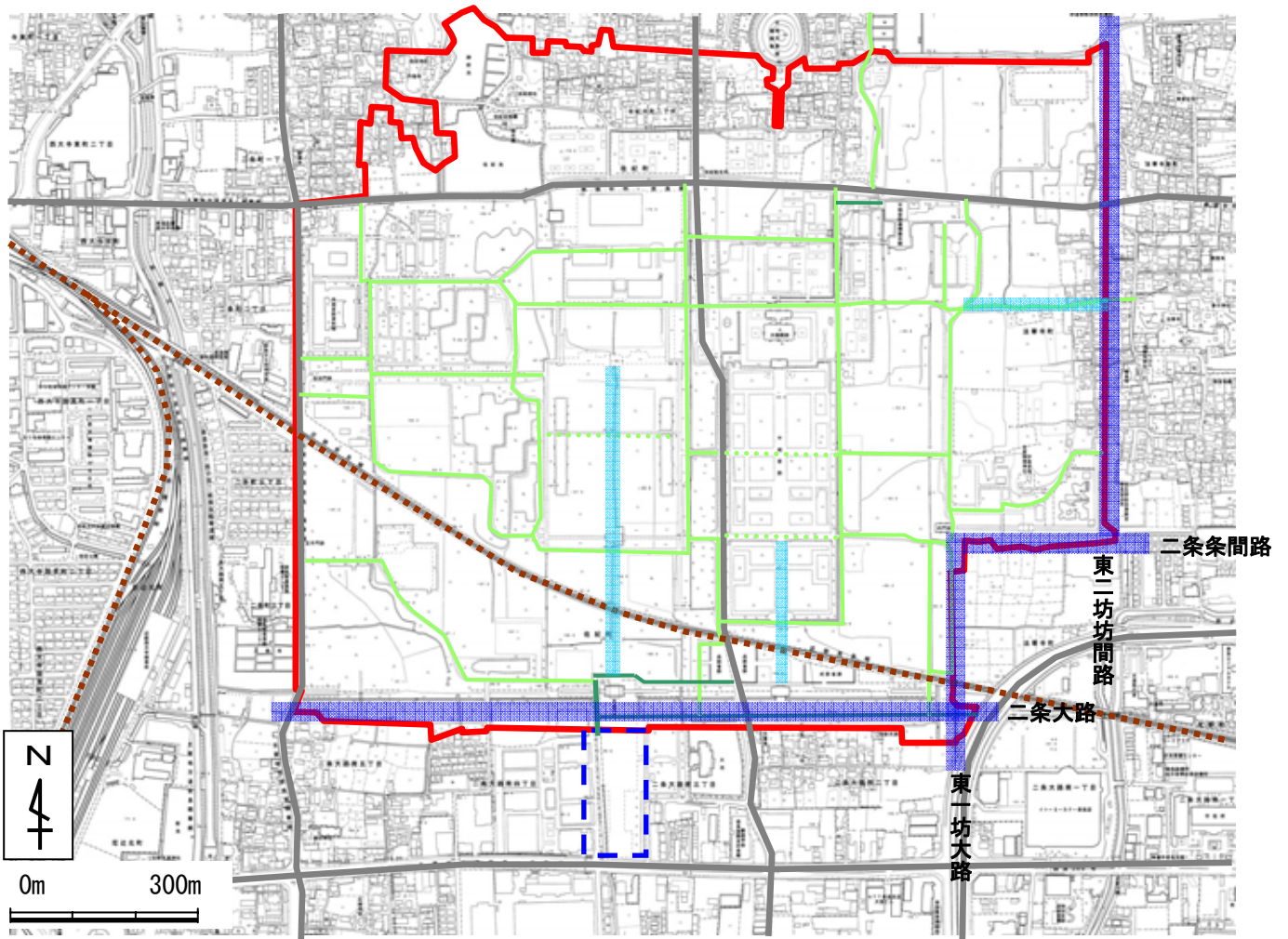
- ・貸切バスの利用が6割以上を占めている。
- ・次いで多いのが近鉄電車を利用して、大和西大寺駅などから徒歩で訪れる団体である。








資料：「特別史跡平城宮跡平成15年度秋季及び冬季利用実態調査報告書（H16.2）」
「平城宮跡団体利用調査（H18.5）」

【往時の道路】

- ・判明している往時の道路としては、宮跡の南側や東側を区画する「二条大路」「二条条間路」「東一坊大路」「東二坊坊間路」がある。
- ・宮内道路としては朱雀門と第一次大極殿を結ぶ南北の道路など3カ所が判明している。

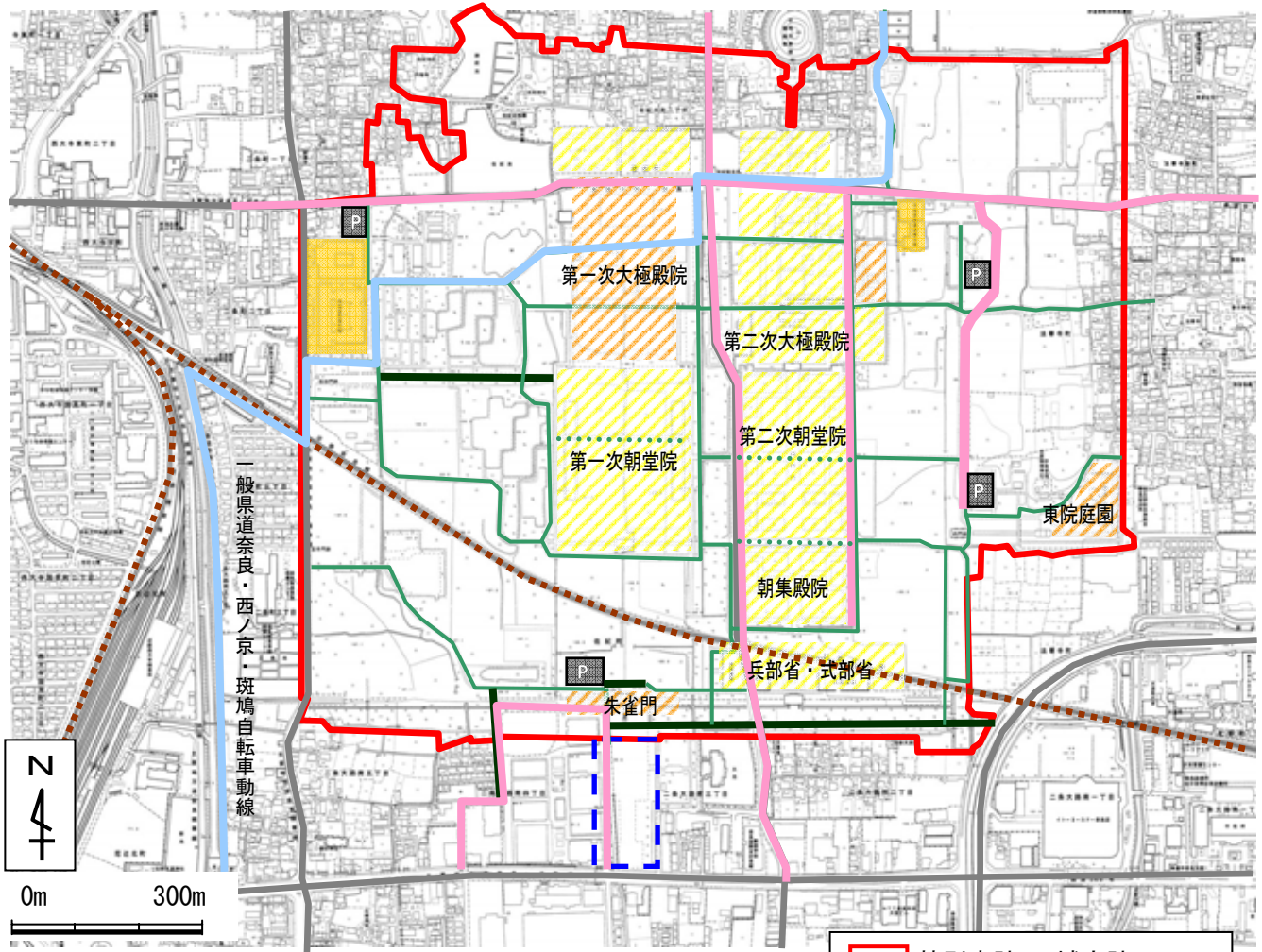


| | |
|---|-------------|
|  | 特別史跡 平城宮跡 |
|  | 史跡 平城京朱雀大路跡 |
|  | 既存園路 |
|  | 条坊道路 |
|  | 宮内道路 |

資料：「平城宮発掘調査報告XVI兵部省地区の調査」（2005 奈良文化財研究所）
パンフレット「特別史跡平城宮跡」（奈良文化財研究所）を参考

【園路整備状況】

- ・自動車は、遺構展示館東側から東院庭園にかけてと、第二次大極殿院から朝集殿院の東側で宮跡内まで入れる構造となっている。
- ・現在の園路は、復原された遺構等の外周部を中心に配置されている。
- ・宮跡の北側から西側にかけて、広域自転車道としての指定がある。
- ・近鉄線を横断できるのは、みやと通のほか、宮跡東端の南北園路のみである（歩行者専用）。



| | |
|--|-----------------|
| | 特別史跡 平城宮跡 |
| | 史跡 平城京朱雀大路跡 |
| | 既存園路（幅員 5 m 未満） |
| | 既存園路（幅員 5 m 以上） |
| | 広域自転車道 |
| | 車両通過可能道路 |
| | 展示施設 |
| | 復原整備施設（復原施設） |
| | 復原整備施設（遺構表示） |
| | 駐車場 |

【参考：利用者別動線の想定】

- ・現況の園内（園路）利用状況をもとに、利用者（観光客、歴史学習や体験の利用者、その他のレクリエーション利用者、通勤・通学者）別の利用形態を想定した上で、必要な動線を確保することとする。

※なお、以下の記述において、《歩行動線》とは歩行者の動線を、《自転車動線》とは自転車の動線を、《園内移動システム動線》とは園内移動システムの動線を示す。

①観光客

- ・観光を目的とした利用者であり、短時間で、主要な遺構の復原、表示箇所をポイント的に訪れるものと考えられる。

《歩行動線》

- ・メインエントランスから朱雀門、第一次朝堂院を経て第一次大極殿院に至る動線

（・第一次大極殿院から第二次大極殿院に至る動線）

《園内移動システム動線》

- ・第一次大極殿院（及び第二次大極殿院）からメインエントランスに至る動線
- ・メインエントランスから主要な遺構の復原、表示箇所に至る動線

<主要な遺構の復原、表示箇所>

- ・朱雀門、東院庭園、遺構展示館（内裏・推定宮内省）、第二次大極殿院、第一次大極殿院

②歴史学習や体験の利用者

- ・歴史学習や体験を目的とした利用者であり、比較的長い時間をかけ、数多くある遺構の復原、表示箇所をくまなく訪れるものと考えられる。

《歩行動線》

- それぞれのエントランスから最寄りの遺構復原体感エリアに至る動線

- ・メインエントランスから朱雀門に至る動線
- ・東側サブエントランスから遺構展示館に至る動線
- ・西側サブエントランスから第一次大極殿院に至る動線

- 遺構復原体感エリアの周遊、往来を行う動線

- ・朱雀門から第一次朝堂院を経て第一次大極殿院に至る動線
- ・遺構展示館から内裏・推定宮内省を経て第二次大極殿院に至る動線
- ・第二次大極殿院から第二次朝堂院、兵部省・式部省に至る動線
- ・第一次大極殿院と第二次大極殿院をつなぐ動線
- ・第一次朝堂院から第二次朝堂院、東院庭園をつなぐ動線

《園内移動システム動線》

- ・終着点となる遺構の復原、表示箇所からメインエントランス（遺物展示）を経

て、それぞれのエントランスに至る動線
＜終着点となる遺構の復原、表示箇所＞

- ・ 第一次大極殿院、第二次大極殿院、遺構展示館（内裏・推定宮内省）、東院庭園、兵部省・式部省

③その他のレクリエーション利用者

- ・ 散策や鑑賞など多様なレクリエーション活動を目的とした利用者であり、比較的長い時間、一カ所に止まるものと考えられる。

《歩行動線及び自転車動線》

- ・ それぞれのエントランスから最寄りのレクリエーションゾーンに至る動線

④通勤・通学者

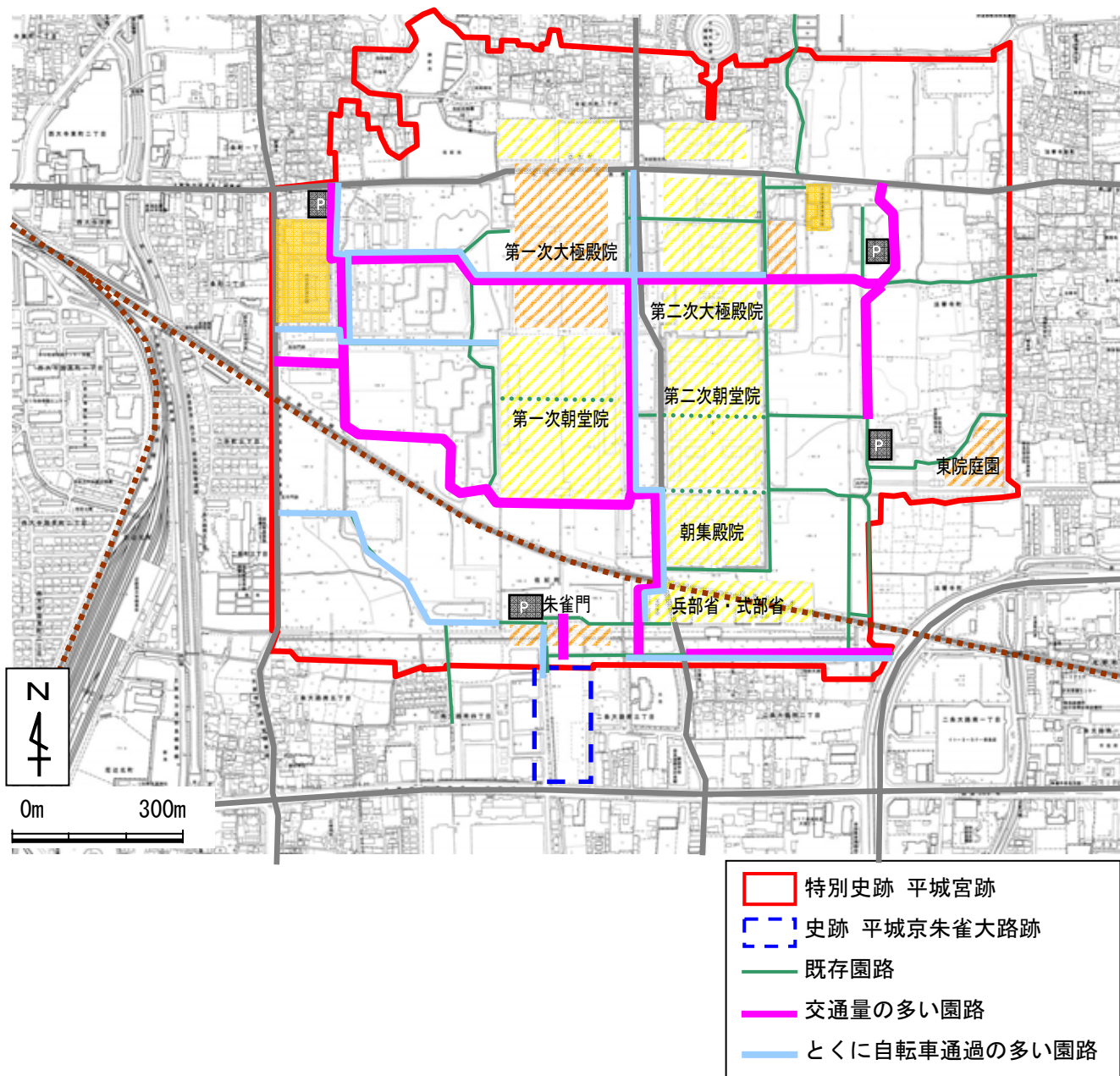
- ・ 通過利用者であり、短時間で、園内を縦横断するものと考えられる。

《歩行動線及び自転車動線》

- ・ 園内を縦横断する、他の利用者の利用（①～③）を妨げない動線

・園路利用状況

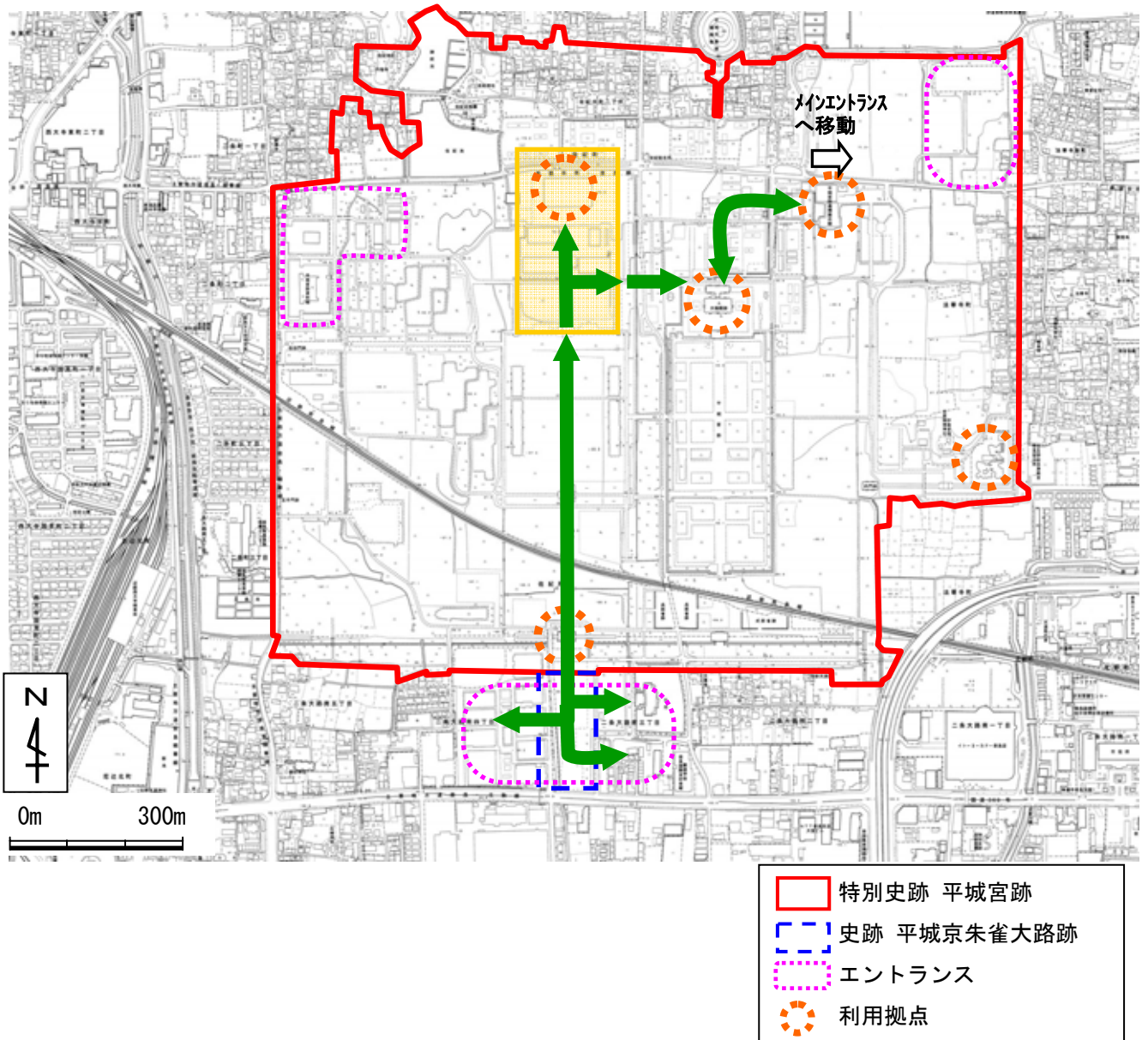
- ・歩行者・自転車の交通量が多いのは、資料館～第一次大極殿院～第二次大極殿院を結ぶ東西の園路や、資料館前・みやと通西側・東院庭園への引き込みの三本の南北園路である。
- ・第一次朝堂院西側を囲むように巡らされた園路では、マラソンやジョギングなどの周回コースとしての利用も多い。
- ・自転車は、宮跡を東西・南北に突っ切る形での利用が多い。



資料：「平城宮跡内園路交通量調査（H18.2, H18.5）」を参考

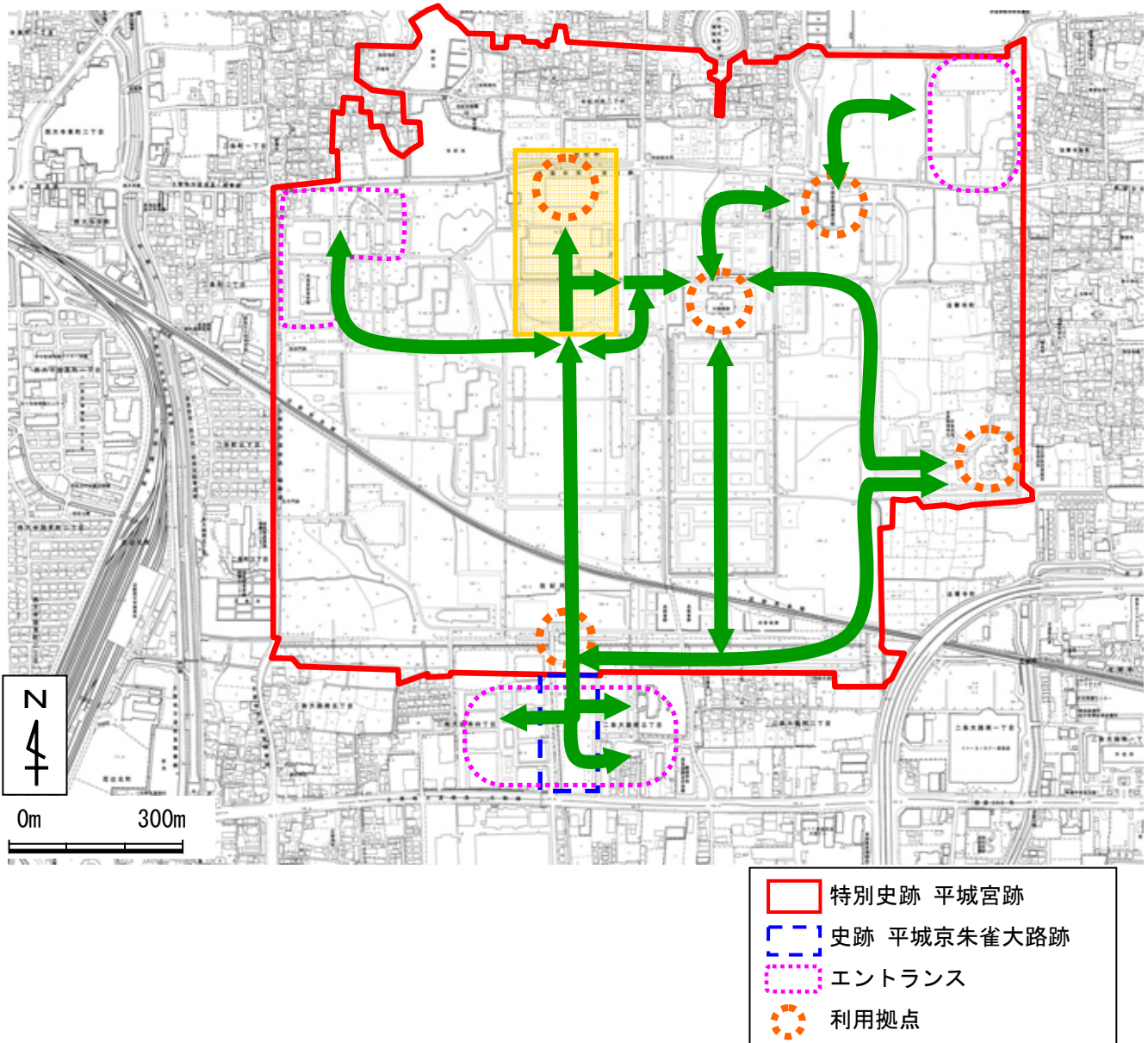
・動線イメージ①（観光客）

- ・観光を目的とした利用者は、短時間で、主要な遺構の復原・表示箇所をポイント的に訪れると考えられる。
- ・主なスタート地点としてはメインエントランスが想定され、目的地の見学等が終わった後は、速やかにメインエントランスに戻ることを求められる。



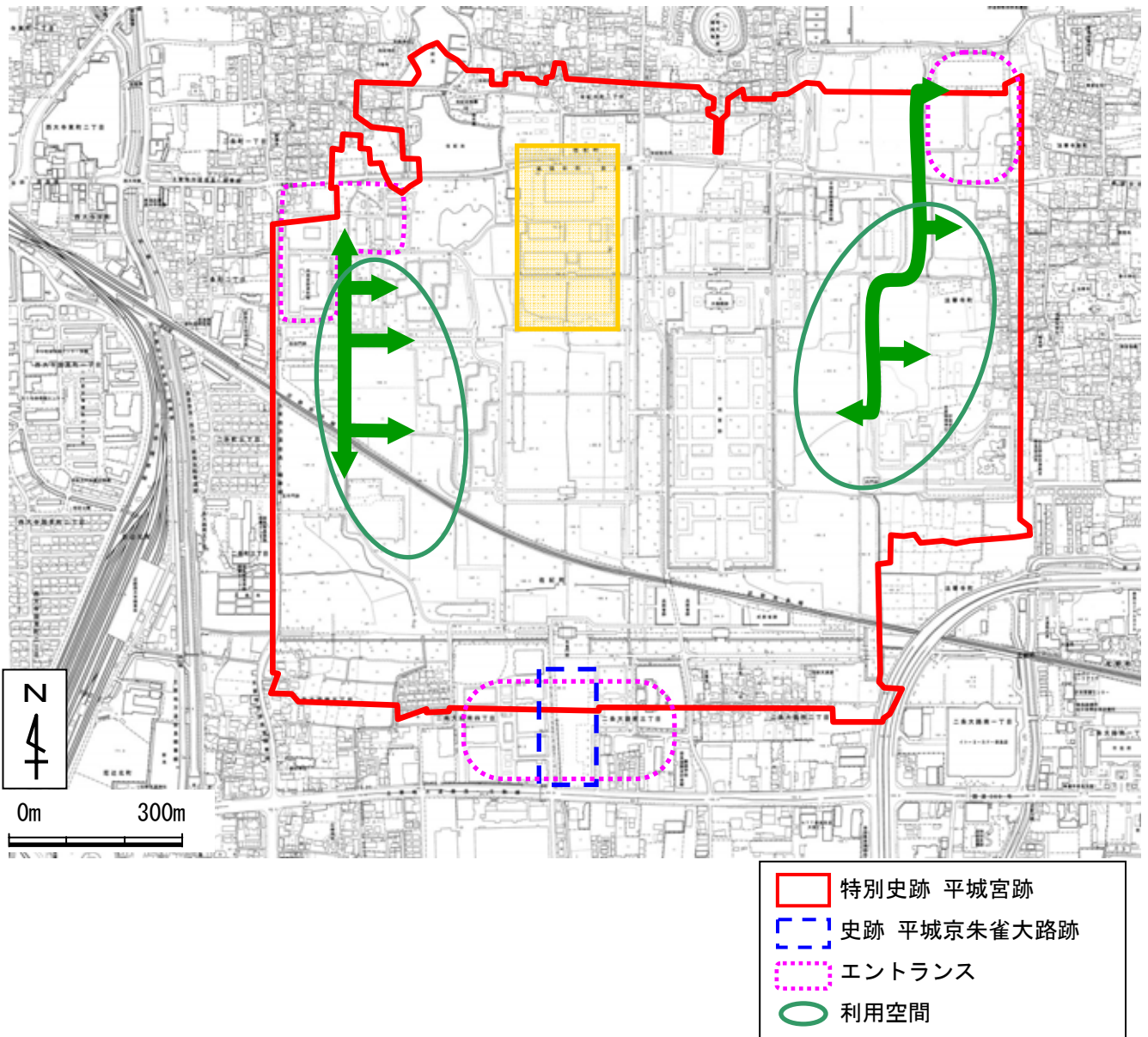
・動線イメージ②（歴史学習や体験の利用者）

- ・歴史学習や体験の利用者は、比較的長い時間をかけ、数多くある遺構の復原・表示箇所をくまなく訪れると考えられる。
- ・メインエントランスの他に、サブエントランスからの来園者も多く見込まれる。



・ 動線イメージ③（その他のレクリエーション利用）

- ・ 散策や鑑賞など、多様なレクリエーション活動の利用者は、比較的長い時間、一ヶ所に止まるものと考えられる。
- ・ 主にサブエントランスから来園し、速やかに目的地へ移動することが予想される。



・動線イメージ④（通勤・通学者）

- ・園内の通過を主とする利用者であり、短時間で、園内を縦横断するものと考えられる。
- ・一般的な利用者のエントランスとは関わりなく最も近い出入り口が利用され、利用の時間帯も朝夕に集中することが予想される。

